

# 医者も知らない平穩死



連載⑤

主治医をお願いされているグループホームでのことです。新しい入所者さんが入られたので、全身を診察しました。

その方の右の手首と左の肘は固まっています。左右の手の間は開きません。ご家族によれば、「ここに来る前に入所していた施設で2回転倒し、病院に入院して、1カ月間ギプスで固定していた」とのこと。

その結果、骨折は治ったが手首と肘が固まってしまった。まさには骨折による後遺症です。

さらには、長期入院で認知症状も進行してしまいました。施設長さんに意見を求められましたが、「困りましたね」としか言えませんでした。現在は理学療法士にリハビリをしてもらっています。ただ、このリハビリは、本来はもっと早く始めるべ

## 骨折しても自然治癒

〈長尾和宏〉長尾クリニック院長・日本尊厳死協会副理事長。著書に『平穩死』10の条件など。きものだったのです。

外来でも在宅でも施設でも、転倒した高齢者を診察するのは珍しいことはありません。膝のお皿を割った人、足の付け根の骨を折った人、腰の脊椎がひしゃげた人……。

ご家族が強くと入院を希望されたら別ですが、私はあまり入院を勧めません。部位にもよりますがギプス固定もしません。軟らかい添え木のようなもので支えるなどして、痛くない体位を保ちながら、ある程度は自由に動かせるようにします。そして、ひたすら待つだけです。

人間の体の自然治癒力はすごい。3カ月もすれば、骨折の痛みはすっかり薄れ、自分でお茶碗を持って食事をしたり、杖をつきながら散歩したりできるようになります。

若い人にはよくやる「ギプス固定」は、高齢者においては、思わぬ後遺症を招くことがあるので

